



management
経営
探訪

季節的条件に左右されない 通年稼働型の 農業のあり方を模索する

株式会社秋田ニューバイオファーム 代表取締役 鈴木幸夫氏

代表者二人は元々農業人。地域農業の将来、そしてみずからの農業経営の将来を思う時に、通年稼働できる農業が必須と考え、農事組合法人として新しい農業のあり方を追求。生産、加工、観光農業とリスク分散を図りながら多面的な展開を模索する鈴木幸夫社長にお話を伺った。

通年稼働できる農業を目指して 施設園芸から事業をスタート

当社は昭和62年に農事組合法人として発足しました。設立メンバーである私と齋藤取締役会長は、元々は稲作とキノコ栽培の農家でした。設立目的は、農業従事者として通年稼働できる農業形態の確立を目指そうというものでした。

オランダに農業研修に行っていた齋藤が園芸農業を見てきて、ハウスで水耕栽培する農法なら冬の厳しい秋田でも可能と考え、ハウスを1棟建てて大葉の栽培からスタートさせました。

大葉は2年やりましたが、冬場の光熱費で採算割れするため、その後はあとから建てたハウスを含めて3棟でミニトマトを生産して京浜市場に出荷していました。

農産物生産に加工部門を加えて 経営のリスク分散に先手を打つ

平成元年からきりたんぼの加工を始めまし

た。施設園芸だけでは通年稼働は厳しく、経営の安定、雇用の維持という面でもリスクが大きいということが分かってきたためです。

この「経営のリスク分散」に先手を打ったことで、実は当社は命拾いをしています。平成3年に猛威を振るった台風19号で当社もハウスに壊滅的な被害を受けてしまいました。加工部門に着手していなかったらあの時点で事業は立ちいかなくなっていたのではないかと思います。

きりたんぼは言うまでもなく県北部地域が本場で、後発の我が社が県内市場に参入するのは困難と考え、最初から関東方面に売り先を絞りました。現在は大手スーパーチェーンとの取引があり、関東では一定のシェアを持っています。

同業他社との差別化を図るため、きりたんぼの工場としては当社が県内で唯一、有機JASの認定を取得しています。消費者に自社製品の安心安全をアピールする意味合いもあります。

ハーブを軸にした観光農園開設 通年稼働に一層のてこ入れ目指す

平成7年に近隣地に「道の駅にしめ」が開設されたのに合わせて、当社でも自社敷地内に「ハーブワールドAKITA」をオープンさせました。一般的には当社は“ハーブワールドAKITAの会社”と認識されているかもしれませんが、農産物生産と農産物加工の事業が先にあり、その創立10周年記念事業の新規部門として立ち上げたのがハーブワールドAKITAです。単にモノをつくって売っただけの事業でなく、地域の活性化につながるような交流の場をつくりたいという思いで、そのツールとして、人の心身の健康に役立つハーブがメインの観光農園にしました。今はハウスではぶどうを栽培しているのですが、それは、年間を通してコンスタントにお客さんに来てもらうために、ハーブにプラスアルファとして、春は菜の花、夏はひまわり、そして秋にはぶどうのもぎ取りを楽しんでもらおうという思惑で選定しました。ハーブワールドAKITAは冬期間は休業し、毎年3月下旬から営業を再開するのですが、再開直後の訴求力が弱いので、将来的にはこの時期にイチゴを投入しようかと考えています。

健康志向のハーブワールドAKITAを補強する狙いで、平成17年に岩盤浴の施設をつくったのですが、この際に、岩盤浴の営業が農事組合法人の事業としてなじまないという制度上の理由があって、株式会社に組織変更しました。

縁あって平成22年からは東京港区にある秋田県のアンテナショップ「あきた美彩館」の運営も受託しています。食の生産に携わる事業者として、消費地の動向を探る貴重な経験をさせてもらっていると思っています。

株式会社
秋田ニューバイオファーム
〒018-0604
由利本荘市西目町沼田字新道下490-5
Tel.0184-33-4150 Fax.0184-33-4192
http://www.akita-newbiofarm.com



「元祖秋田屋」の屋号で販売するきりたんぼは、きりたんぼ工場としては県内唯一の有機JAS認定工場で製造される。焼き上がったきりたんぼを冷却するため大掛かりな自動機械を導入。



- A. 自動化されたきりたんぼ製造工場での事業展開を語る鈴木幸夫社長。
- B. 一般には「ハーブワールドAKITA」の観光スポット名で知られる。
- C. 健康志向の施設として平成17年に岩盤浴「さ・ら・ら」を開設。
- D. 平成22年3月からは秋田県のアンテナショップ「あきた美彩館」(東京都港区)も受託運営している。
- E. 地元の農産品・農産加工品を販売する「めんこいな市場(由利本荘市イオンスーパーセンター本荘店内)」。
- F. ハーブのハウスを案内する鈴木社長。

